

# 桑名広域環境管理センター放流水水質検査結果

令和3年4月

桑名広域環境管理センターでは、し尿処理場から出る放流水の水質検査を毎月1回実施しています。

## 水質検査結果表

(令和2年度)

項目	pH	BOD	COD	SS	T-N 窒素含有量	T-P 磷含有量	色度	大腸菌群数	
単位	—	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	度	個/cm <sup>3</sup>	
基準	5.8~8.6	10以下	10以下	5以下	10以下	1以下	30以下	3,000以下	
令和2年	4月	7.8	検出せず (0.5未満)	1.3	検出せず (0.5未満)	1.5	0.11	検出せず	検出せず
	5月	7.6	検出せず (0.5未満)	1.7	検出せず (0.5未満)	2.5	0.18	検出せず	検出せず
	6月	7.8	0.6	2.9	検出せず (0.5未満)	2.0	0.18	検出せず	検出せず
	7月	7.9	検出せず (0.5未満)	4.4	0.7	1.9	0.23	2	検出せず
	8月	7.5	0.7	2.3	0.5	2.1	0.15	1	検出せず
	9月	7.7	1.6	2.9	0.5	2.5	0.21	1	検出せず
	10月	7.6	検出せず (0.5未満)	2.4	検出せず (0.5未満)	2.2	0.15	1	検出せず
	11月	7.7	0.6	3.3	検出せず (0.5未満)	3.4	0.08	1	検出せず
	12月	7.7	0.5	3.2	検出せず (0.5未満)	1.5	0.11	1	検出せず
令和3年	1月	7.5	0.9	1.8	0.7	2.3	0.11	検出せず	検出せず
	2月	7.9	検出せず (0.5未満)	3.0	0.7	2.4	0.12	1	検出せず
	3月	7.8	検出せず (0.5未満)	0.6	0.5	2.1	0.11	検出せず	検出せず

### 【環境用語の解説】

pH (水素イオン濃度)	値が7のときが中性、それより大きいとアルカリ性、小さいと酸性となります。河川水は通常6.0~8.5ですが、流域の地質、人為的汚染、植物プランクトンの光合成などにより影響を受けることがあります。
BOD (生物化学的酸素消費量)	この値が高いと水中に溶けている酸素が欠乏しやすくなり、10mg/l以上になると悪臭の発生などが起こりやすくなります。ヤマメやイワナの生息に適する水質は2mg/l以下、コイやフナが生息するのに望ましい水質は5mg/l以下とされています。
COD (化学的酸素要求量)	湖沼における有機物等の汚濁の指標として用いられます。この値が大きいほど水は汚れていることとなります。
SS (浮遊物質量)	水中に浮遊又は懸濁している粒子2mm以下の不溶性質量のことで、この値が大きいと、工場・事業場排水の流入、降雨や河川改修工事等による土砂等の流入、プランクトンや藻類の増殖などの原因が考えられます。
T-N (窒素含有量)	窒素化合物の総量で、生物の生育に欠くことのできない栄養塩類ですが、水域に必要以上に増加すると、プランクトンなどの異常発生の原因となります。
T-P (磷含有量)	リン化合物の総量で、生物の生育に欠くことのできない栄養塩類ですが、水域に必要以上に増加すると、プランクトンなどの異常発生の原因となります。
色度	水中に溶け込んでいる物質による水の着色の度合いを表します。この値が大きいほど水は汚れていることとなります。
大腸菌群数	大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水中の大腸菌群数は、し尿汚染の指標として使われています。